

5/19 2020

GDPの実質成長率 1~3月期

年1.0%減 オミクロン影響

2022年1~3月期の
国内総生産(GDP)は、
物価変動の影響を除いた実
質(季節調整値)で前期
(21年10~12月期)比0.0%

%減となりた。オミクロン
株の感染拡大で個人消費が
伸びなかつたほか、輸入の
増加が数字を押し下げた。
▼2面=コロナ前水準戻れ
るのか、9面=識者は

コロナ禍以降、四半期ごとに
マイナスとプラスを繰り
返す状態が続いている。

GDPの半分以上を占める
個人消費は前期比0.03
%減。ほぼ四半期を通じて
「まん延防止等重点措置」
が最大36都道府県に出され、
飲食や宿泊などのサー

ビス消費が落ち込んだ。企
業の設備投資は0.5%
増。輸出入では、自動車な
どを中心に輸出が1.1%

ストの予測の平均値(年率
1.36%減)よりもマイナ
ス幅は小さかつたが、2四
半期ぶりのマイナス成長。

ただ、ウクライナ危機によ
る物価高や米国の金融引き
締めなどで世界景気の先行
きは不安材料が多く、国内
の経済への影響も懸念され
ている。

21年度のGDPは実質で
前年度比2.1%増。3年
ぶりのプラス成長となつた

が、諸外国に比べるとまだ
低い水準だ。4~6月期は
重点措置の解除で個人消費
が増えると見込まれ、民間
予測では年率5~18%増と
プラス成長となる見通し。

ただ、ウクライナ危機によ
る物価高や米国の金融引き
締めなどで世界景気の先行
きは不安材料が多く、国内
の経済への影響も懸念され
ている。

内閣府が18日、1次速報
を発表した。民間エコノミ
ストの予測の平均値(年率
1.36%減)よりもマイナ
ス幅は小さかつたが、2四
半期ぶりのマイナス成長。

ただ、山際大志郎経済再生相
は記者会見で「下ぶれ幅は
非常に少なくて済んだとい
うのが実感。景気は持たず
している」と強調した。

(北川謙二)

コロナ前水準 戻れるのか

GDPマイナス

企業先行き不安 貨上げ動き鈍く

時 刻

1~3月期伸び率マイナス成長を記ち込んだ日本経済は、回復に向かうのか。足元では「あん延防止等重点措置が解除され、5月の大連休も人の動きが戻つて来た。観光や飲食など消費の回復にも期待がある」一方、ウクライナ危機による先行き不安が世界中を覆っている。視界はなかなか晴れそうにない。▼1面参照

「ホノルル便など、海南島への路線を迎えた。ハワイが戻ってきた」

W初日の4月29日の羽田空港、全日空の井上慎一社長は上機嫌で乗客を見送った。現在、週3往復のゴルデンウイーク(GW)初日の4月29日の羽田空港、全日空の井上慎一社長は上機嫌で乗客を見送った。現在、週3往復の

「ホノルル便など、海南島への路線を解除了。7月は成田空港と合わせ毎日運航する。

3月に東京措置が解除さ

れ、今年は3年ぶりにコロ

ナの行動制限がかからない

GWとなつた。全日空と日

本航空によると、4月29日

鉄道の担当者は「コロナ禍

根岸駅」に座席の列がで

き、ケーブルカーやロープ

ウェーを運行する箱根登山

地・芦之湖では名物の「箱

舟」が鮮明になつてきた。

GWは国内の観光地にも

向が鮮明になつてきた。

GWは国内の観光地にも